

平成29年3月30日（木）9：00～
平成28年度離任式 挨拶

I 安積の精神について（平成28年9月作成資料による）

II 「改めて、安積の校歌！」（平成28年度PTAだより（1月）原稿タイトル）

～最近、各地の安積桑野会に出て感じるのが、大学生など若い世代が「凱歌（天地の正気）」等の応援歌はともかく、校歌でさえ3番まできっちり歌えないことで、これは憂うべき事と言わざるを得ない。安積OB・OGとしては、少なくとも校歌と「紫の旗のゆくところ」を歌えることが必要十分条件。以上が、生徒で3年、教諭で11年、校長で4年の計18年間、安積の水を飲んだ88期生久保田の遺言（?）。～

100%安積大好き人間はあり得ない、・・・やむを得ないが、安積に少しでも愛着を持っている・感じているのであれば、在学中にしっかり頭にたたき込んで、クラス会や同期会、地区の安積桑野会等で声高らかに歌ってほしい。

平成28年9月
安積の精神（開拓者精神 質実剛健 文武両道）覚書 H28(2016)
安積高等学校長 久保田範夫

1	明治34年 (1901) 創立17年	「安積中学校諸規則」中の「訓条」9項 一 独身内省克己ノ工夫ヲ凝ラシ 一 節義ヲ尚ビ 廉恥ヲ重ンジ→「 <u>桑野学風ハ質実ノ美德ヲ誇ル英雄タレ</u> 」（ある同窓会員）（「萌ゆる安積野～創立百十年誌」より）
2	大正3年 (1914) 創立30年	「生徒心得」"訓条"3項 一 規律ヲ厳守シ 能ク師命ニ服スヘシ 一 礼儀ヲ尚ビ 誠実ヲ旨トスヘシ 一 心身ノ錬磨ニカメ <u>質実剛健ノ氣象ヲ振起スヘシ</u> <u>安積の校風、伝統ともいふべきもの、それは"質実剛健"ということだとよくいわれる。</u> （「萌ゆる安積野～創立百十年誌」より）
3	昭和23年 (1948) 創立64年	「福島県立安積高等学校生徒心得」 （学校生活を送るための「生活指針」というようなもの） はじめに <u>"訓条"として、心身の錬磨に力め質実剛健ノ氣象を振起すへし、</u> というような、大正期に制定された旧制中学校の心得も残しながら、頭髮の自由とか、登校・下校の際の制服制帽の着用とかがあげられ、～安高四十余年、現在につながり、現在も生きている方針である。（「萌ゆる安積野～創立百十年誌」より）
4	昭和25年 (1950) 創立66年	「教育方針」 教育基本法・学校教育法に基き特に生徒の個性を適正に伸長し平和的な国家及び社会の形成者として真理と正義を愛する豊かな知性と情操と強い実践力を養い、秩序と勤労を重んずる <u>自主的な責任感を培うことを根本方針とし、且つ進取の氣象と、親和協同の精神にとみ、質実真摯な人物の養成につとめる。</u>

		<p>cf. <u>平成28(2016)年の「教育方針」</u></p> <p>本校の教育は、教育基本法・学校教育法に基づき、生徒の個性を伸長し、高い知性と豊かな情操と強い実践力を養い、秩序と勤労と責任を重んずる<u>自主自律の精神</u>を培い、かつ<u>進取の気象</u>と<u>協同の精神</u>にとみ、平和的文化的な国家および社会の形成者として真理と正義を愛する、<u>質実にして真摯な人物の養成</u>に努める。</p>
5	昭和39年 (1964) 80周年	<p>～<u>安積の伝統「開拓者精神」</u>ということは、創立八十周年をすぎた頃から言われてきたように思える。～（「<u>萌ゆる安積野～創立百十年誌</u>」より） ※ この部分は、<u>故仲村哲郎教諭（66期）執筆</u></p>
6	昭和49年 (1974) 90周年	<p>要確認 『安積高校90年史』</p>
7	昭和57年 (1982) 98周年	<p>この年、安積の「学校祭」に命名すべくアンケートを実施。「<u>安積野祭</u>」「<u>紫桜祭</u>」「<u>紫旗祭</u>」が上位三つで、職員は「<u>安積野祭</u>」を推したが、生徒が強硬に「<u>紫旗祭</u>」を主張、職員も「98周年は紫旗祭でよいが、100周年で再検討する。」とし、100周年も「<u>紫旗祭（しきさい）</u>」と称して開催、現在に至る。（「<u>安積野第98号</u>」）</p>
8	昭和59年 (1984) 100周年 「 <u>安積百年誌</u> 」より	<p>「<u>学校長式辞</u>」 村上啓正(第31代校長) ～創立以来百年、<u>質実剛健の気風</u>を高くかけ、<u>開拓者精神</u>をもって学んだこれら二万五千余名の魂が宿っている、創立当時そのまの白亜の校舎「旧本館」は、～厳然として聳え立ち、朝な夕な我々に無言のうちに百年の歴史と伝統を肌で感じさせてくれます。～ ～精神澁刺たる校風の振起を図り、～ ～今ほど、<u>安積の伝統である質実剛健の気風</u>のもと、<u>自分のやるべきことを精一杯やるという開拓者精神</u>をもった若人の輩出が望まれる時代はないと思います。</p> <p>「<u>あいさつ</u>」 百周年記念事業実行委員長 滝田元二(45期) ～安積に学ぶ健児の尊い歴史が連綿として続き、<u>質実剛健の気風と開拓者精神の気迫</u>を持つ幾多の人財が輩出されてまいりました。 ～安積高校は<u>文武両道の旗印</u>のもと、学究と体育の向上のため鋭意邁進しております。</p> <p>「<u>あいさつ</u>」 県教育長 佐藤昌志 ～生徒諸君も、この百年の間に先輩諸兄や関係各位の情熱により培われた<u>開拓者精神、文武両道の精神、質実剛健の気風</u>を受け継がれ、真に正しい精神の継承こそが新たな精神の向上であるとの認識のもとに、本日を安積高等学校の二世紀への第一歩として益々努力されるよう期待する次第でございます。</p> <p>「<u>祝辞</u>」 福島県知事 松平勇雄 ～本校の伝統は<u>開拓者精神</u>にあると聞いております。～各人が<u>進取の気象</u>をもって自らの勇氣と信念によりその可能性を<u>開拓</u>し、～</p> <p>「<u>祝辞</u>」 福島県教育委員会委員長 坪井孚夫 ～創立以来の<u>質実剛健、文武両道</u>の校風が連綿と続き、学業におい</p>

		<p>ても、また部活動においても、教育に関心のある方々が瞠目するような目覚ましい実をあげているところであります。</p> <p>「祝辞」 福島県高等学校協会長 大槻 進 ～この百年はここに学んだ若者の切磋琢磨の連続によって積み重ねられてきたものであります。 ～安積高等学校の名門たる所以は、～先輩が営々として築き上げた質実剛健、文武両道そして開拓者精神の校風が後輩に脈々と受け継がれているということにあると私は確信しております。</p> <p>「生徒代表のことば」 生徒代表 橋本向意(98期) ～「質実剛健」「開拓者精神」といった校風は、百年を経過してうすれつつあると言われます。しかし、今この安積に学ぶ私たちは、誇り高い伝統を受け継いでいくためにも、これらの校風を、今一度再確認し、後世に伝えていかなければならないと固く決意しております。</p>
9	平成6年 (1994) 110周年 「萌ゆる安積野～創立百十年誌」より	<p>「真の開拓者精神」 宮島守之(第35代校長) ～安積魂を身につけた優れた人物が、社会の各分野各層で名を残し、あるいは現に活躍なされている～ ～困難に雄々しく立ち向かって己の人生を切り拓くことだけが開拓者精神ではありません。その個々の努力の前方に、国家社会、人類のために何事かをなさんという志を見据えていてこそ真の開拓者精神と言えましょう。～</p> <p>「巻頭言」創立百十年周年記念出版委員会委員長 野田昭栄(63期) ～先人の築き上げた偉業と、フロンティア精神に満ちた「文武両道」の伝統を「温故知新」徒らに時流に溺れることなく、脈々と継承していきたいと念願するものであります。～</p> <p>「創立百十年周年記念座談会」(p11) ～「開拓者精神」とも言われる安積の心を、これからどう生かすか、それぞれの参加者から率直なお話をうかがい、～ 「安中・安高三代以上在籍者顕彰」(p11) ～三代以上在籍者について、安積の伝統、モットーである質実剛健・開拓者精神を現在から未来に向かって発展させることに力をつくし、桑野会会員として会の活動に協力されたことを趣旨として顕彰する。～</p> <p>「安積に思う」 安原滋(前校長、第34代校長) ～安積を訪ねる喜びは、正門を入ったとき、木の間隠れに見える旧本館の佇まいに始まります。足を止めると、百余年の風雪に耐え、幾多の俊秀を世に送った自信と誇りに満ちた姿が、無言の威圧感を伴って迫ってきます。安積に学んだことを誇りとし、生きる支えとして自らの人生を生きた男たちの息吹が、静に伝わってきます。～ ～開拓者精神に裏打ちされ、人間愛を基調に、自由かつ闊達に生きた安積の若者が、～人生の原風景として、確固とした存在感を若者の胸に刻み続けた安積～</p> <p>「創立百十年誌」の「目次」には、</p>

		<p>「質実剛健・文武両道・開拓者精神」とある。</p> <p>「開拓者精神は安積の心」(p 33)</p> <p>～安積の伝統「開拓者精神」ということは、創立八十周年をすぎた頃から言われてきたように思える。安積開拓の地「桑野」に、新校舎がつくられて現在までということが、この精神の基盤であり、根幹であろう。桑野中学として動きはじめて以来、教師・生徒は多くのことを開拓してきた。(明治から大正にかけて)生徒の自主・自立、愛校心が各所に現れる。これが、安積高校になって、生徒自治会をつくりだす「開拓者精神」につながってきている。</p> <p>※ この部分は、故仲村哲郎教諭(66期)執筆</p>
		<p>「安積に学ぶ」 生徒代表(生徒会長)野崎信隆(108期)</p> <p>～安積高校には、「質実剛健」の校風があり、文化祭に代表される楽しい「文武両道」の生活もある。更に、「開拓者精神」で表される安積開拓の新進の気運に触れる機会も多い。～</p>
10	平成7年 (1995) 111周年 『開拓者精神は安積の心』	<p>※ 安積高校桜桑会は、平成7年4月1日『開拓者精神は安積の心』(約140頁)と題する小冊子を作成、新入生に配付、現在に至る。この冊子は、安積をこよなく愛する故仲村哲郎教諭(66期)が中心となって執筆、完成したものである。</p> <p>はじめに</p> <p>～安積の校風"開拓者精神"とは、安積高校に関わるもの共同の力で、それぞれの道を開き、全体の力を向上させていこうということである。これまで百年をこえてその努力をしてきた～</p> <p>本文の書き出し</p> <p>～わが安積高校の校風は"開拓者精神"といわれてきているのはいつからか、安積高校の"伝統"はなにかといわれれば、それは、百年をこえる歴史の中で、常に"開拓者精神をつちかしてきたこと"といっているのではなかろうか。～</p>
11	平成7年 (1995) 111周年 『桑野会報第26号』(平成7年9月17日)	<p>「白亜の学舎と安積の心に思う」 渡邊専一(第36代校長)</p> <p>～着任以来、これまで安積に学ぶ者の心の底に培われてきた、困難な課題に挑戦し続け己の人生を切り開こうとする「開拓者精神」を養うことに、一層努めて参る覚悟であります。～</p> <p>※ 平成8年3月1日の卒業式以降、「第〇〇期生卒業式・入学式」と称するようになった。それまでは「平成〇〇年度卒業式・入学式」</p>
		<p>「開拓者精神」は安積の心 仲村哲郎(前職員 66期)</p> <p>～私は、この春、職を終わるに当って、表題の本を学校及び生徒諸君に贈ってきました。どうしても贈りたかったのです。～</p> <p>(『安積高校90年史』等の)記念行事にたずさわることができた私は、安積の校旗、校歌、校章、あるいは校友会から生徒自治会・生徒会－1890(明治23)年に発行された『扶桑の花』それにつづく～「校友会雑誌」「安積野」、さらには、ベースボール会から運動会・体育祭に発展してきた体育行事、～安積高校新聞に至る文化行事、これらの全てが、生徒たちの発想になり教師が援助するという形でつくられてきたことを知りました。これこそ、「安積開拓」の地に創建された「桑野御殿」でつちかわれてきた"開拓者精神"、そして百余年の安積の学舎の推進力になった精神だと学んだのでした。それ以降、「開拓者精神は安積の心」と思ってきています。</p>

12	平成11年 (1999) 12月2日	<p>「共学化に関する基本方針」(安積高等学校共学準備委員会) 共学化について(職員協議会の内容を受けて)</p> <p>共学化に関するこれまでの決定事項と、1999年11月22日と30日の2回にわたって開催された職員協議会で話し合われた内容の趣旨にそって、共学準備委員会として以下のことを確認します。</p> <p>一 基本方針</p> <p>(1) 本校は、教育の本質と百十五年の歴史と伝統を自覚し、本校生徒の良識を信じる立場から共学に際しての諸準備を行う。</p> <p>(2) 教育方針は、共学に際しても変更の必要を認めず、現行の教育方針を存続させる。</p> <p>(3) 従来から本校生の校訓的意味をもった「質実剛健」「文武両道」「開拓者精神」のうち、他校には例をみない「開拓者精神」を特に基本に据えて諸準備を行う。</p>
13	平成12年 (2000) 7月15日	<p>校長から生徒への共学化についてのお知らせ ～現段階での主な進捗状況を下記のとおりお知らせします。</p> <p>記</p> <p>一、教育方針・校旗・校歌・校章は変更しない。なお、校名については学校として変更する予定はありません。</p> <p>二、本校において校訓的な意味を持つ「質実剛健」「文武両道」「開拓者精神」は今後も堅持する。</p> <p>三、四は省略</p> <p>五、制服は特に定めない。入学式・卒業式などにおいても同様とする。</p>
14	平成13年 (2001) 4月	<p>男女共学化 4月9日 第117期生(男子273名 女子137名)入学</p>
15	平成16年 (2004) 120周年 「萌ゆる安積野～創立120周年記念誌」	<p>「次代を担う安積の精神」 廣瀬渉(第39代校長)</p> <p>～男女共学になりましても、本校生は、安積の精神である"開拓者精神・質実剛健・文武両道"を継承し、創立以来変わることのない校歌や"紫の旗ゆくところ"を謳い、互いに切磋琢磨しながら青春の日々を真剣に生きています。時代は変わろうとも、本校生のなすべきことは、安積の精神を学び、志高く、次代を担う有為な人間に成長し、国内外を問わず世界各地で中心的役割を果たしながら活躍しておられる先輩各位の後に続き、必ずや将来、国家社会、人類に貢献することであります。この安積の精神は継承され生き続けなければなりません。自主自律の校風を自覚し、驕りを捨てて誇りを持ち、知徳体を磨き、自らが何事にも真摯に積極的に学ぼうとする安積高校生に、未来を託します。～</p> <p>●安積高校への想い 「学んでよかったと言いつけられる学校に」 源後正能(県教育庁指導主事・88期)→現在、安積黎明高校校長 ～安積高校において、120年にわたって形成された「文武両道」「質実剛健」「開拓者精神」という三つは、不確実な時代であっても揺らぐことのない校訓だと、共学に際して教員間で確認しました。</p> <p>●挨拶</p>

		<p>新しい「開拓者精神」生徒代表（現生徒会長）熊田純子（119期） 今年、百二十周年を迎える本校は、「質実剛健」「文武両道」「開拓者精神」を校風としている。～女子が入ることで崩れてしまうというほど、安積の伝統とは脆弱なものなのだろうか。「開拓者精神」というものを校風の一つとする安積高校であれば、共学化という新しい環境に適応し、勉強や部活動などの学校活動において、男子生徒と女子生徒が互いに協力して、より高いものを目指していくというのが本来の在り方ではないだろうか。そして、このことこそが、安積の目指す「開拓者精神」であり、この精神を受け継ぎ、さらに発展させ、次につないでいくことが、安積の伝統を守ることになるのではないかな。</p> <p>私が入学したのは、全ての学年に女子生徒が入った2003年である。入学してからの二年間、先輩や友達が男性や女性といった性にとらわれず、勉学・部活動に励んでいる姿を私は見てきた。それらの活動の原動力になっているのが、<u>共学化により新しい意味を与えられた「安積の精神」</u>ではないだろうか。～今後は、先輩方が築き上げてくれた伝統に甘んじることなく、これからの新しい歴史は自分達で作り上げる、そのような「開拓者精神」を持ち、これからの安積の歴史を私たちは切り拓いていくべきだろう。～</p> <p>「安積野ウォーク 大会の趣旨」 ～匈奴発展の源である安積疎水をたどり、猪苗代湖畔から安積歴史博物館まで、32kmの行程を歩き通すことにより、<u>安積高校の校訓である「開拓者精神」「質実剛健」の精神</u>を確認し、本校並びに生徒の更なる発展をはかる。</p>
16	平成26年 (2014) 130周年 「 萌ゆる安積野～創立130周年記念誌 」	<p>「百三十年～明治・大正・昭和そして平成に思いを馳せて」 久保田範夫(第43代校長 88期)</p> <p>まさに21世紀が動き出した平成十三(2001)年に、男女共学になるという大きな動きがありましたが、本校の生徒たちは「開拓者精神、質実剛健、文武両道」の「安積の精神」を常に先輩達から学び取りながら、時間や言葉・記憶を共にしてきました。</p> <p>～安高生は、「安積の精神」と伝統をただ単に受け継ぐだけではなく、明治・大正・昭和・そして平成の各時代背景の下、「真の安高生は如何にあるべきか」「安積らしさとは何か」を絶えず自らに問いかけて検証し、<u>新たな伝統を創造してきたのであり、これからもその流れは変わらないと考えています。</u>また、「安積の精神」の中でも「開拓者精神」は、大きな困難に立ち向かい自分の人生を切り拓いていくということだけではありません。つまり、自分のやりたいことを貫くことに加えて、大震災後のふくしま、日本、そして人類のために「熱誠 事(こと)に当」たろうという高き志を掲げて進んでいくこと、それが<u>安積の開拓者の真の姿</u>と言えるでしょう。</p> <p>「震災を乗り越えた創立百三十周年に寄せて」 P T A 会 長 湯浅大郎(92期)</p> <p>(平成26年3月1日、第127期卒業式における送辞と大震災後安積に入学した「震災1期生」の力強い答辞)を聴いた教職員、保護者、来賓は皆、「文武両道」「質実剛健」「開拓者精神」の校風が、千年に一度とも言われる大震災を経て、一段と磨き上げられたことを確信したのでした。</p>

	<p>「羽ばたけ、紫の旗」 桜桑会会長 佐藤正廣（78期） ～「質実剛健」「開拓者精神」「文武両道」の安高三精神を受け継いだ安高生が「紫の旗」を全国に向けて雄々しくたなびかせてくれることを願ってやみません。～</p>
	<p>「お祝いのことば」 福島県知事 佐藤雄平 ～本校の伝統の根底にある安積の精神は、「開拓者精神」質実剛健、文武両道」にあると聞いております。明治時代に行われた国内で初めての近代国家事業である「安積開拓事業」における安積疎水事業は、荒涼とした安積野の原野を潤し郡山の農業の発展と、疎水による発電を利用した工業の発展に大きく貢献し、今日の郡山の繁栄の基礎が築かれました。先人のこのような開拓者精神は、安積高等学校の精神として連綿と現在に受け継がれております。～</p>

平成28年9月現在

周年	学校名	校訓(校是、精神等)	校風、モットー、教え等
118	福島	明治31年創立梅章のおしえ 「清らかであれ、勉励せよ、世のためたれ」	自主自律・ 文武両道 をモットーに日本の未来を切り拓いていく人材を育成
94	保原	質実剛健 和衷協同	
54	二本松工業	自立・強調・実践	文武両道 ・ 質実剛健 の校風
132	安積	安積の精神(開拓者精神 質実剛健 文武両道)	
40	郡山北工業	調和・創造・特色	教育目標＜調和のとれた人間の育成 創造力のある豊かな人間の育成 (Ⅲ 科学的開拓精神 を養い、つねに新しいものの創造ができる実践力をもった人間の育成・・・)＞
108	岩瀬農業	至誠勤勉 質実剛健 終始一貫	
74	小野(平田も)	質実剛健 明朗闊達	
126	会津	校是(好学愛校 文武不岐)	
104	若松商業	明浄 正直 誠実 剛健	教育方針＜人間教育 学力向上 文武両道 (品格・個性・心技体商業高校としての実績)＞

114	会津工業		生徒の目標＜我等の信条（４項目）、具体的な行動目標（ 文武両道 ＝学問と武芸の両立 至誠勤労）＞
98	喜多方	金剛不壊（ふえ）・ 文武両道	
68	西会津	不撓不屈 質実剛健	
68	川口	明浄 正直 剛健	
93	双葉	質実剛健 終始一貫	
113	相馬農業 （飯舘も）	「質実剛健」「明朗闊達」 「不屈敢行」 の精神	